

## 要約 京都の経営経済動向調査結果 (2010. 4. 5)

- 2010年1～3月期実績と2010年4～6月期及び7～9月期予想 -

京都商工会議所  
担当：中小企業経営相談センター  
電話 (075) 212-6467

### 大企業製造業中心に持ち直し傾向 ～中小企業では依然厳しさが目立つ～

#### 概要

今期、季節的な要因もあって自社業況は下降したものの、各指標とも前期予想に比べて落ち込み幅を抑えるなど、下降基調は徐々に緩やかさを取り戻しつつある。とりわけ大企業製造業では一般機械や精密機械などハイテク関連業種を中心に受注・生産の持ち直しの動きが見られており、先行きへの期待感とあわせて、全体としても持ち直し基調で推移している。国内景気動向についても、今期はマイナス幅を狭め、さらに不需要期にあたる7～9月期にかけても持ち直し傾向が続くなど、先行き回復への期待は強い。

しかしながら、経営体力が脆弱な中小企業や厳しい業況の悪化が続く建設業や繊維関係業種などでは、依然として回復の足取りは重い。

(注) 2月下旬から3月上旬にかけ同調査を実施し、612社中511社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店を持つ企業)。また1～3月期のBSI値は、2009年10～12月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

#### I 国内景気動向

1～3月期のBSI値は、▲8.7(前期実績▲9.5)とマイナス幅を狭め、下降傾向で推移した。今後の4～6月期は0.2、続く7～9月期は0.5とわずかながらも改善を予想し、引き続き持ち直し傾向で推移する見通しとなっている。

#### II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 1～3月期のBSI値は、▲9.2(前期実績▲2.2)と、不需要期にあたることもあって下降傾向を強めた。今後の4～6月期は▲3.0と再び下降幅を縮小し、7～9月期はやや縮小のテンポが鈍るものの下降基調は徐々に緩やかになるなど、先行き持ち直し傾向で推移する見通しとなっている。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 1～3月期のBSI値は、▲10.7と再び減少した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は減少傾向で推移するものの、運輸・倉庫業や不動産業、サービス業の旅館・ホテルや食料品、鉄鋼、化学・ゴムなどの製造業や食料品卸といった業種で増加し、全体としてマイナス幅を狭める見通しとなっている。続く7～9月期は不需要期にあたることから、製造業の電気機械、化学・ゴムや機械金属卸など一部業種を除き幅広い業種で慎重な見通しとなっている。

2. 製・商品・サービス・請負価格 1～3月期のBSI値は、▲10.2(前期実績▲11.3)と下降を続けた。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、季節的要因から上昇する旅館・ホテル、その他サービス業、料理・飲食などのサービス業を除くほとんどの業種で下降を見通し、続く7～9月期は、機械金属卸や製造業の化学・ゴムなど一部を除き、ほとんどの業種で下

降を続ける見通しとなっている。

3. 経常利益 1～3月期のBSI値は、▲12.7と、減益傾向で推移した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は減益傾向が続くものの、季節的要因もあってサービス業の旅館・ホテル、料理・飲食や製造業の食料品をはじめ、化学・ゴム、機械金属卸などの業種で増益を予想し、全体としても減益傾向がやや弱まる見通しとなっている。続く7～9月期は、不需要期にあたることから、製造業の化学・ゴム、電気機械を除く幅広い業種で減益を見通している。
4. 所定外労働時間 1～3月期のBSI値は、▲3.1と再び減少した。今後の見通しについて業種別に見ると、4～6月期は、旅館・ホテル、その他サービス業などサービス業の一部や、鉄鋼、食料品、精密機械など製造業の一部で増加するものの、建設業、小売業をはじめ製造業の窯業・土石、木材・木製品、出版・印刷など多くの業種で減少を見通し、続く7～9月期も繊維卸や製造業の化学・ゴムを除くほとんどの業種で減少を続ける見通しとなっている。
5. 製・商品在庫 1～3月期の製・商品在庫は、「適正」とする企業が71.8%と概ね適正水準で推移したが、一部に過剰感が見られた。業種別に見ると、依然として繊維卸、繊維製品製造、繊維製造など繊維関係業種で過剰感が見られた。今後は、繊維関係では引き続き一部で過剰感が残るものの全体として過剰感がやわらぎ、先行き概ね適正水準で推移する見通しとなっている。
6. 資金繰り 1～3月期のBSI値は、▲6.6と悪化傾向で推移した。今後の見通しについて規模別に見ると、4～6月期は、大企業ではほぼ横ばいを予想する一方、中小企業では引き続き悪化を見通し、続く7～9月期はともに悪化を見通すものの、中小企業の厳しい見方が目立つなど、規模間で差が見られる。

### Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」(77.1%)が前回に続き第1位になった。第2位は「製・商品(請負)価格安」(33.5%)と「過当競争」(33.5%)が並び、第4位に「人件費負担増大」(14.1%)、第5位に「マーケティング力不足」(11.5%)が続いた。前回2位の「過当競争」、前回3位の「製・商品(請負)価格安」はそれぞれ回答率を上げて同率2位となった。

### Ⅳ 企業経営の今後の方向(年1回3月時点調査で実施)

前回調査で第2位だった「人材の開発・育成」(前回39.9%→今回40.1%)が第1位で高いポイントを示した。第2位には前回4位の「国内市場の拡充・強化」(36.9%→34.8%)が挙げられた。また、前回調査で第1位だった「省力化・合理化の徹底」(40.5%→34.4%)が、第3位となった。

※ B.S.I.値 = (上昇[増加、他] - 下降[減少、他]) × 1/2

国内景気	実績			予想						
	2010年1～3月期			2010年4～6月期			2010年7～9月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲ 8.7	13.7	31.0	0.2	19.0	18.7	0.5	18.3	17.4	
規模別	大企業	▲ 1.8	15.5	19.0	2.5	19.1	14.2	3.6	18.4	11.3
	中小企業	▲ 11.3	13.0	35.5	▲ 0.7	19.0	20.3	▲ 0.9	18.2	19.9
業種別	製造業	▲ 6.6	16.4	29.6	2.3	20.6	16.0	3.5	19.8	12.9
	卸売業	▲ 8.9	13.2	30.9	3.0	22.1	16.2	0.8	20.6	19.1
	小売業	▲ 11.6	11.5	34.6	▲ 7.7	3.8	19.2	▲ 11.6	0.0	23.1
	建設業	▲ 14.7	8.8	38.2	▲ 5.9	20.6	32.4	▲ 6.1	12.1	24.3
	不動産業	▲ 7.9	5.3	21.1	▲ 2.6	21.1	26.3	2.6	26.3	21.1
	運輸・倉庫業	▲ 13.5	7.7	34.6	▲ 1.9	15.4	19.2	3.9	26.9	19.2
	サービス業	▲ 10.0	12.0	32.0	▲ 2.7	16.2	21.6	▲ 5.4	14.9	25.7

自社業況 (総合判断)	実績			予想						
	2010年1～3月期			2010年4～6月期			2010年7～9月期			
	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	
総計	▲ 9.2	22.9	41.3	▲ 3.0	23.0	29.0	▲ 6.9	14.6	28.4	
規模別	大企業	0.7	33.8	32.4	0.3	26.2	25.6	0.4	19.9	19.1
	中小企業	▲ 13.1	18.6	44.8	▲ 4.3	21.7	30.3	▲ 9.8	12.5	32.0
業種別	製造業	▲ 8.2	24.7	41.0	▲ 4.1	19.7	27.8	▲ 3.3	17.4	23.9
	卸売業	▲ 11.4	18.2	40.9	▲ 3.1	25.7	31.8	▲ 9.9	10.6	30.3
	小売業	▲ 11.5	15.4	38.4	▲ 1.9	15.4	19.2	▲ 9.6	7.7	26.9
	建設業	▲ 7.6	24.2	39.4	▲ 16.7	12.1	45.5	▲ 16.7	3.0	36.3
	不動産業	▲ 10.5	21.1	42.1	2.6	31.6	26.4	▲ 7.9	15.8	31.6
	運輸・倉庫業	▲ 26.0	8.0	60.0	2.0	32.0	28.0	▲ 10.0	12.0	32.0
	サービス業	▲ 4.8	28.4	37.9	3.5	34.3	27.4	▲ 10.3	16.4	36.9